



# 学校だより 神橋

令和3年1月6日  
横浜市立神橋小学校  
1月号

## 「神橋〇〇大作戦」

校長 末松 隆一郎

明けましておめでとうございます。

令和3年が始まりました。今までとは違った年末年始を迎えられた方も多いかと思いますが、「新春」にふさわしい暖かさの中、穏やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今の状況が落ち着き、皆様が幸せで健康に満ちた1年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

今年の年始、自他の安全と健康を願う中で、それぞれの夢や希望の実現に向けての期待と、忍び寄る不安を抱えてのスタートとなりました。そのような中で、そのような中だからこそ、一本の襷を繋ぐため「絆」をもとに死力を尽くして走る選手から勇気や力をもらうため、「東京箱根間往復大学駅伝」(箱根駅伝)を今年も応援していました。ただ今年例年と違うことは、感染拡大防止のため、沿道ではなくテレビで熱く観戦し、選手たちにエールを送っていました。そして、母校青山学院大学の、往路12位からの激走、復路優勝という「絶対王者としての意地」を見せてもらい、大きな感動とあきらめない心の大切さをもらいました。

青山学院大学といえば、青学陸上部・原晋監督の「大作戦」が、箱根駅伝の一つの風物詩となっています。原監督は監督就任後2013年頃から、大会に臨むスローガンを、「〇〇大作戦」と名付け、チーム哲学の定着、課題の克服、選手のモチベーション向上等を図ってきました。脚光を浴びたのは2015年の箱根駅伝で初の総合優勝をした時の「ワクワク大作戦」でした。「優勝候補」にまで力を付けたチームが、逆にそれがプレッシャーとなり緊張感が高まってしまったことを懸念し、「ここまで本当に必死に練習し着実に力は付いている。最後は青学フエン、沿道の皆さん、皆にワクワクしてもらえそうな、明るく楽しく、青学らしい襷リレーをしよう。」という思いを込めて名付けたそうです。監督の思いは伝わり、「笑顔」と「明るさ」が選手個々の能力を最大限に引き出し、初の総合優勝を飾ることとなりました。2015年以降の代表的な作戦名は、



- 「ハッピー大作戦」(2016年箱根駅伝) 駅伝連覇で、みんなハッピーになれるように。
- 「エビフライ大作戦」(2016年全日本大学駅伝) 頭から尻尾まで全部美味しいエビフライのように全員が力を出し切るように。
- 「サンキュー大作戦」(2017箱根駅伝) 駅伝3連覇&大学駅伝3冠を目指して。
- 「ハーモニー大作戦」(2018箱根駅伝) 混戦が予想される今年の駅伝。一人一人がベストを尽くし美しいハーモニーを奏でることができれば優勝できる。
- 「やっぱり大作戦」(2020箱根駅伝) やっぱり青学は強かったと言わせる走り进行しよう。

そして、今年は「絆大作戦」。未曾有のシーズン、駅伝の原点である「絆」を大切に戦おうという意味の作戦名でした。青学だけでなく、どのチームの選手の走りや言葉から、強い絆の力を感じました。

令和2年度後期後半が始まります。状況は厳しさを増し、首都圏における緊急事態宣言発出の検討も始まったようです。まだまだ先が見えない状況は続きそうですが、そんな時だからこそ、一人一人がやりたいこと、やるべきことをしっかりともち、それぞれの「大作戦」を銘打ち実現に向けて行動する時ではないかと思ひます。私たち教職員も、「神橋 子ども達のため大作戦」の具体を明確にもち、今日から実行していきたいと思ひます。

今年もよろしくお祈りします。